

新収蔵資料抄



最寄り図書館に取り寄せ可

資料概要

渡辺省亭(わたなべ・せいてい)は、明治～大正期に活躍した日本画家。晩年画壇とは距離を置いていたため、忘れられた存在となっていた。本書は、再評価の気運を高めようと、国内の美術館では初となった渡辺省亭の本格的な回顧展に合わせて制作された画集である。縦37cm、横27cm、厚さ4.3cm、重さ3.1kg、カラー図版152点。豪華な装丁に、新たに撮影した画像を収載した。

パノラマページでは、国宝・迎賓館赤坂離宮の花鳥の間、小宴の間に飾られた七宝額の原画が並ぶ。小宴の間の2点は、濤川惣助が手掛けた七宝と省亭の原画が見開きに置かれ、見比べることができる。この七宝額原画は、縦72.7cm、横47.9cmの楕円に四季折々の花と鳥が写実的に描かれた作品群で、すべて異なる花鳥がさまざまな構図で描かれている。迎賓館という華やかな場に相応しく、かつ見るものを和ませる省亭の繊細で潇洒なセンスの真髄を実感できる作品である。

七宝額原画以外の作品は、日本画は第一章から第四章にかけて制作年代順に、第五章で多色摺木版や小説の口絵、挿絵、第六章で省亭が原画を手掛けた工芸品が紹介されている。加えて、省亭研究を牽引する執筆者による論考、年表、作品解説なども収載され、省亭の幅広い画業を包括的に捉えることができる。

省亭が見直されるきっかけとなったのは、日本美術院百年史編纂のために行われたボストン美術館所蔵品の調査だという。同史第1巻での省亭の画業紹介は部分的なものだったが、伝統的な日本画の主題・構成を西洋的な

渡辺省亭画集

渡辺 省亭／[画] 山下 裕二・古田 亮／監修 小学館 2021.3
355p 37cm 721.9/+ ネ 13 2021.5.14 受入 定価 55,000 円＋税

目次

いま甦る渡辺省亭、その復権に向けて／山下裕二

図版目次
口絵
凡例

迎賓館赤坂離宮 七宝額原画

第一章 明治初期
第二章 明治二十年代
第三章 明治三十年代
第四章 明治四十年代から大正時代
第五章 版本 口絵 挿絵
第六章 工芸品

渡辺省亭 その画業と作品／古田亮

師・菊池容斎との絆について ― 省亭の初期
作品から／塩谷純

逸民省亭 日々の暮らし／古田あき子

パリの渡辺省亭 ― 日本画とジャポニスムのはざ
まで ―／三浦篤

省亭版本管見／岩切信一郎

濤川惣助の七宝を支えた原作者・渡辺省亭／岡
本隆志

水巴からみた省亭／峯岸佳葉

「西洋人は、省亭がお好き？」／野地耕一郎

作品解説

落款・印章

渡辺省亭 年譜

省亭をめぐる人々

渡辺省亭 文献リスト

掲載作品リスト

「いま甦る渡辺省亭、その復権に向けて」、「渡辺省亭
その画業と作品」 要旨英訳

執筆者一覧

リアルな写実で描いたその作品は鮮烈な印象を残した。

これを機に作品調査が進められ、ポーランド、ドイツ、イギリス、フランス、ベルギー、オランダ、カナダ、ワシントンなど欧米の主要な美術館が省亭作品を所蔵していることが明らかになる。日本が知らなかっただけで、世界は省亭を知っていたのである。

執筆者の一人、古田亮氏の評が端的に省亭を言い表している。

日々の生活を大切にするとところから生み出された省亭の作品は、(略) 感性の鋭さ、技巧の確かさ、表現の豊かさによって、結果的には他のどんな近代日本画家たちとも一線を画す、省亭独自の画境を作り出した。

執筆者

山下裕二(明治学院大学教授)、古田亮(東京藝術大学大学美術館准教授)、塩谷純(東京文化財研究所文化財情報資料部長)、古田あき子(美術史家)、三浦篤(東京大学教授)、岩切信一郎(美術史家)、岡本隆志(宮内庁三の丸尚蔵館主任研究官)、峯岸佳葉(齋田記念館主任学芸員)、野地耕一郎(泉屋博古館分館長)、植田彩芳子(京都文化博物館学芸員)、糸瀬ふみ、柴田美貴

県立図書館所蔵 関連書籍

渡辺省亭 花鳥画の孤高なる輝き 渡辺 省亭／[画]

岡部 昌幸／監修 東京美術 2017 (資料番号 13383237)

日本美術院百年史 1巻 上 図版編 日本美術院 1989
(資料番号 00608331)

日本美術院百年史 1巻 下 資料編 日本美術院 1989
(資料番号 00608349)

本紙は、県立図書館が新たに所蔵した資料(図書資料・視聴覚資料)から、ぜひご利用いただきたいものを厳選してご紹介するものです。これらの資料は、禁帯出資料を除き、最寄りの図書館に取り寄せできます。なお、本紙の内容はWebにも掲載しています。ご覧の際は右のQRコードをご利用ください。また、内容の誤り等、お気づきの点があればお知らせくださるようお願いいたします。

